



日本語ネットワーク 住みつづけて呉主催「学校生活ガイダンス」実施報告

日時： 2021年2月20日(土) 13:00~15:00

場所： 広まちづくりセンター5階 502 (広島県呉市広古新開2丁目1番3号)

参加者： ・ 外国にルーツを持つ市民 18名(保護者11名、子ども7名)

・ 呉市内5校の小学校代表

- 呉市立白岳小学校 深見 直彦 校長先生
- 呉市立横路小学校 藤村 佳令 校長先生
- 呉市立似方小学校 横山 眞澄 校長先生
- 呉市立広小学校 枝長 真智子 校長先生
- 呉市立坪内小学校 渡邊 浩美 校長先生

・ 呉市内3校の中学校代表

- 呉市立白岳中学校 村井 眞司 校長先生
- 呉市立横路中学校 九十九 尚志 校長先生
- 呉市立似方中学校 平田 洋一 校長先生

・ 支援者 10名

(日本語ネットワーク 住みつづけて呉、ワールド・キッズ・ネットワーク、ひろしま国際交流センター、呉市地域協働課)

ゲスト講師： 小島祥美 准教授 (東京外国語大学 世界言語社会教育センター)

- 全国各地の自治体の外国につながる子どもの教育にかかわる委員、文部科学省外国人児童生徒等教育アドバイザーなど歴任。

※Zoom ビデオコミュニケーションでのリモート参加

活動内容： ① はじめの挨拶(白岳小学校日本語学級担任 江口修三先生)

② 小学校の生活について(白岳小学校 深見校長先生)

③ 中学校の生活について(白岳中学校 村井校長先生)

④ ゲスト講師からのメッセージ

1) 保護者の皆さんに大切にしたいこと

2) 学校の先生方に伝えたいこと

⑤ 学校別懇談会(入学予定/在籍中の学校毎に分かれて)



小学校の生活について(白岳小学校 深見校長先生より)

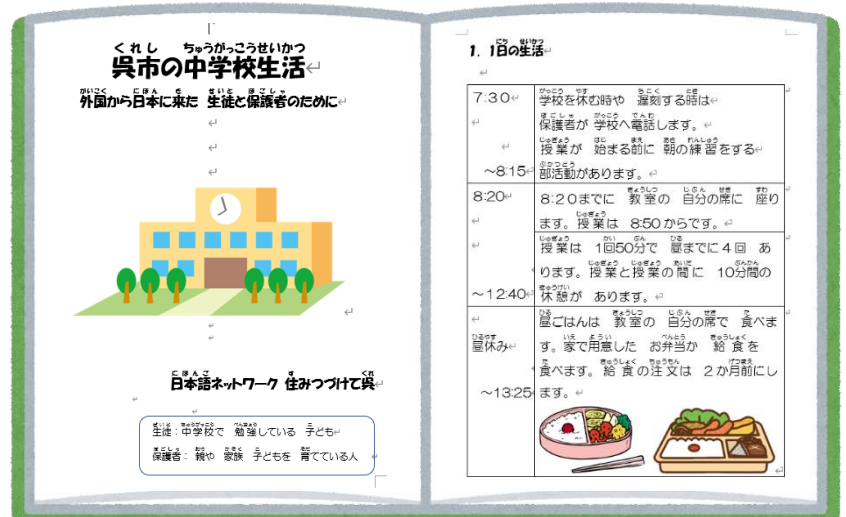


【主な説明内容】

1. 学校の一日のスケジュール、授業の時間割、年間行事について
2. 学校のルール、成績について
3. 学校で使うもの、入学式までに用意するもの
4. 学校と保護者の連絡方法(保護者懇談会、個人面談、家庭訪問など)
5. 相談窓口・日本語学習支援の案内



中学校の生活について(白岳中学校 村井校長先生より)

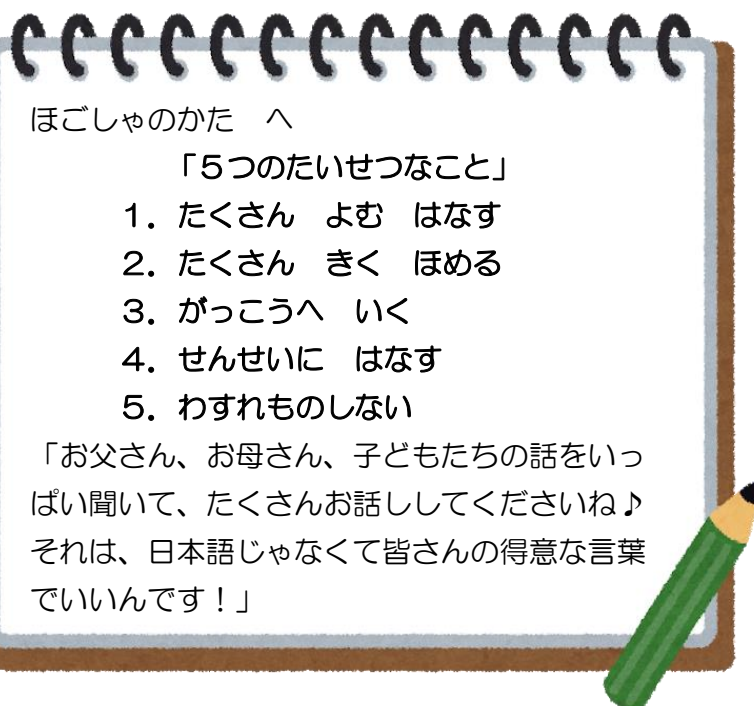


【説明内容】

1. 学校での一日の生活、授業、部活動について
2. 校則(学校のルール)、成績について
3. 学校で必要なもの、入学式までに用意するもの、お金について
4. 年間行事、進路について
5. 相談窓口・日本語支援の案内



ゲスト講師のお話(小島祥美先生より)



小島先生がこれまで関わってきた全国の外国籍の子どもたちの成長ストーリーや、活躍する姿についてお話いただいた後、会場の保護者に向けて上記のメッセージが送られました。参加者の皆さんは熱心にメモを取ったり、携帯で写真を撮ったり、しっかりと心に留めようとしていました。その後、出席されている校長先生や学校の先生方に向けて、以下の「大切なポイント」についても触れていただきました。

1. 「渡す」から「伝える」へ

→渡したプリントや話したことの内容は理解出来ないことが多い。「伝わる」工夫をしてほしい。

2. 時間がかかること(日常会話ができること≠学習の理解ができること)

→友だちといっぱいお喋りしていても、授業の時に先生が話していることや教科書に書いてあることが分かってないことが多い。

3. 生きた国際理解教育へ

→子どもたちや両親は、私たちに色々なことを教えてくれる人財。学校や地域の国際理解教育の場で活躍してもらいましょう。

学校別懇談会（入学予定／在籍中の学校毎に分かれて）

ガイダンスの後半では、学校ごとに分かれて懇談会を行いました。
詳しく知りたいこと、不安なことを、直接校長先生に相談できる貴重な機会ということもあり、参加者の皆さんからたくさん質問が出ていました。



お子さんと一緒に、学校のルールや成績のつけ方について質問をしています。大事なことです！



中学校指定のシューズを見せてもらいながら、入学までに用意するものを確認しています。



学校での子どもたちの様子について先生に聞いています。家と学校では違いますよね。



最後に今日の学び、相談したことなどを、全体で共有しました！



— 参加者の感想 —

.....


劉 楊 さん（中国）

2月20日土曜日、「学校生活ガイダンス」に参加させて頂きました。外国から呉市に来た子供達と保護者のために、広市民センターで開催されました。

娘は春から新1年生なので、小学校の説明会でいただいた資料を持ち、不明点をまとめてガイダンスに参加しました。

講師の小島先生が保護者に伝えてくれたこと5つの中で、一番目は「たくさん よむ 話す」でした。「得意なことばで子供にたくさん本をよんで、たくさん話してね、中学生になっても。」という先生の言葉に感動しました！子供と話す時日本語で話すのか母語の中国語でいいのか悩んだことがありますが、今から私はずっとずっと母語で子供と一緒に話したいと思います。

校長先生たちは、休みの日なのに来てくださってありがたいと思います。娘が入学する小学校の校長先生も来られて嬉しかったです。授業が始まる時間や、運動靴の色や、タブレット導入や、他の小学校との違いなど、いろいろなことを教えていただき、入学時に用意する雑巾のことまで説明していただき、助かりました。校長先生は、日本語があまり上手じゃない私と最後まで話してくださいました。本当にありがとうございます！いい経験させていただき、日本語教室の先生たちに感謝しております。ありがとうございました♪



.....

姜 紅焜 さん（中国）

「学校生活ガイダンス」に参加させていただき、ありがとうございました。小島先生が私たちに「5つの大切なこと」を伝えてくれました。私にとっては褒めることが苦手です。子育てをする時上手く褒めたら、子どもは安心し自信を持って前向きな気持ちになるのだと反省しました。ここ最近、息子の学校のお友達には息子が二か国語を話せるのはすごいと言っています。私は少し嬉しいです。自分は中国語が話せますが、子どもができないもったいないと思い、どこに行っても周りの人の迷惑にならないように中国語でおしゃべりしています。だから、みんなも頑張って子どもたちと母語で話しましょう。

小島先生が校長先生たちに伝えた3つのことは、伊藤先生の説明でよく理解できました。小島先生の本を読もうと思って予約しました！深くていい話をいっぱい聞かせてくださってありがとうございました。そして、お忙しい中校長先生たちは時間を割いて参加してくださいました。ありがとうございました。

娘は中学校の新一年生になるから、色々心配なことがありました。先輩と後輩の関係とか学校のプリントなど、校長先生と松橋さんが一緒に説明してくれて安心しました。松橋さんがシューズの見本を持って来て見せてくれました。ありがとうございます。

そして最後に、伊藤先生、学校生活のパンフレットの編集お疲れ様でした。とてもわかりやすかったです。ガイダンスのため、小島先生と校長先生、たくさんの応援してくれた皆さん、ありがとうございました。



.....

王丹さん(中国)

私には4月から小学校一年生になる息子がいます。日本で生まれましたが、普段家庭では中国語で話しています。だから、小学校に上がった先生のことをちゃんと理解できるかなと、とても不安でした。

今回、外国人の子供に向けたガイダンスに参加して、先生から話を聞いて、その不安がなくなりました。この機会を通して、先生たちに外国人の子供のことを知ってもらって、私も学校のことをたくさん知ることができました。先生たちはとても親切に話してくれて、外国人の子供のことをいろいろ配慮してもらって、その話を聞いて、私の不安に思うことがなくなりました。

とても印象に残ったことは「日常会話≠学習の理解」ということです。日常会話ができる外国人の子供は、勉強も大丈夫だろうと思われがちですが、今回の話を聞いて、私も勉強になりましたし、学校の先生にも理解してもらいました。

今回のガイダンスに参加できてとてもよかったです。関係者の方々にとても感謝しています。外国人の親にとってとてもありがたいです。ありがとうございました。



.....

ハウルンさん(ミャンマー)

2月20日土曜日 学校生活ガイダンスに行きました。小学校と中学校のことを校長先生たちがおしえてくれました。ありがとうございました。


わたしはよくわからないから がんばって ききました。

こじま先生が 自分の母国語で「子どもにはなしたり本をよんだりしてね。」と言いました。だからみんなも子どもたちと母国語で話しましょう。

いま 子どもが小学校1年生です。小学校の校長先生といっしょに はなしました。いろいろなことを おしえてくれました。子どもがどうやってはなすか どうやってべんきょうするかを おしえてくれました。わたしは 日本ごがあまり上手じゃないけど 校長先生にごりかいいただいて ありがとうございました。

先生たちが がいこくじんの子どものために アレンジしてくれて ありがとうございました。







松橋 綾（支援者）

学校での取り決めについては、「そのルールに従うべきもの」と疑問を持たずにこれまで来ました。きっと私と同じような日本人の保護者が多いのではないかと思います。この度のガイダンスで、新しく大きな気づきがありました。各学校でのグループ相談会の一つに参加させていただいたところ、ある外国人保護者より学校での上履き（スリッパ）について質問がありました。

「寒くないですか？」ハッとしました。「危くないですか？」さらに、うなずきました。校長先生より、教室には暖房があること、そして、危険性についてもこれまでケガなどは起こっていないと、安全性について説明がありました。最終的に、今後変更などが予定される際には参考意見にさせていただきたいとお伝えしました。

私達が当たり前だと思って受け入れてきたこと、ずっと変わらず同じであったことに対する外国人保護者の率直な意見を聞いて、新しい気づきを得ることができました。私たちの社会がいろいろな意見を取り入れることは、より良くなるきっかけになるのではないかと感じました。


この度のガイダンスは、外国人の生徒や保護者に「教えるガイダンス」ではなく、相談できる場、意見を言える場になったと思います。一緒に学校生活を作り上げることができれば、日本人も外国人も不安なく楽しい学校生活を送れる近道になると感じました。



西村春菜（支援者）

「学校」は、それぞれの国の状況や文化、大切にしていることなどが最もよく現れるところの一つだと思いました。ガイダンスに参加されたお母さん方の話を聞くと、「私の国では、小学校が午前の部と午後の部に分かれているからお弁当を持っていく習慣はありません。その代わりに、お腹がすいた時に校内の売店でスナックを買っていました。日本は、学校へお金を持っていたり、お菓子を食べたりしたらいけませんね。」という声や、「中国では、中学校から寮生活をする子どもが多いため、食事はすべて学校の食堂で食べます。冷たいご飯は体に良くないという教えがあるため、日本のようにお弁当箱にご飯を入れて、冷たいまま食べるのがかわいそうです。」という声も聞きました。

様々なバックグラウンドを持つ世界のお母さんたちから、改めて日本の「当たり前」を見直し、考えるきっかけとなりました。日本の小学校や中学校にはじめて通う、外国にルーツを持つ子どもたちとその保護者の方たちが、安心して新たな一步を踏み出せるよう、このようなガイダンスが継続的に実施され、さらに参加者の声から課題の改善が進んでいくことを期待します。また普段から、不安になった時や、ちょっと相談したいと思った時に、「あの人に聞いてみよう」と顔が浮かぶ人たちが、地域の中にたくさん広がっていくといいなと思いました。



— 校長先生の感想 —



主に、「小学校入学にむけて」に関して、全体での説明を行いました。

その後の、学校ごとに分かれての懇談会で、保護者の方から、学校生活に関する質問や相談を受けました。どの保護者も子どもさんの教育に非常に熱心で、学校に対して信頼し、協力しようとする気持ちを持っておられることがわかり、学校としてもしっかりとその信頼に応えていかなければと強く感じました。学校生活以外でも、家庭での過ごし方や家庭でのルール等に関して、保護者の思いや悩みを交流することができました。できれば、多くの外国籍の保護者が参加して、交流の輪が広がれば、より一層子どもたちの学校・家庭生活が豊かになるのではないかと思います。とても有意義な時間を共有することができました。

ありがとうございました。

白岳小学校長 深見 直彦



中学校の生活について、少しでも分かりやすい説明になれば、と思って参加させていただきましたが、説明前に、どの程度、理解しておられるか、また、どう説明すれば分かりやすいかを十分に把握することができていなかったのも、十分に寄り添えなく、申し訳ありませんでした。今後も、より丁寧な対応を心がけていこうと思います。

また、学校別の説明では、保護者の方が多くの不安や疑問を抱えておられることが分かると同時に、そのことを、どこに尋ねれば良いのかが分からない、という、二重の不安を持っておられることもわかりました。さらに、中学校での生活や、入学時に必要な学用品等について説明させていただく中で、本校の態勢についても、今後に向けて気づきがありました。

いずれも、このガイダンスを経て把握したことであり、保護者の方のみならず、学校としても、いろいろ見つめ直す良い機会をいただきました。今後も、このような機会が継続されることが、生徒及び保護者の方のみならず、学校にとっても良いことだと思います。

白岳中学校長 村井 眞司



新入学を迎える保護者は、多くの不安や悩みを持っていることが改めてわかりました。特に、言語の習得について、両親が外国籍であるため子供のどのような環境を与えればよいのか随分と悩んでおられる実態を知りました。そのことに対しては、大学の先生から「家庭では母語を使用したらよい。」とのメッセージを聞き安心されていました。学校では、保護者の不安や悩みに真摯に向き合っていきたいと思います。

よい学びの場をありがとうございました。

横路小学校長 藤村 佳令



保護者との懇談に参加して、外国籍の保護者が何に悩んでいるのかを知るきっかけになりました。現場では、国によって、将来教育が必要だと捉えている保護者とあまり必要だと思わない保護者がいます。それぞれの国によって、教育の捉え方がちがひ、レベルもちがう。そのギャップの差が大きいと感じています。今回参加された保護者は、かなり教育に対して関心があり、日本語も話せる人たちでした。参加しにくい保護者をどう巻き込むかが今後の課題だと思います。そうはいつでも、逆の立場に立った時は、やはり悩むと思います。

横路中学校長 九十九 尚志



入学前に顔を合わせて話をする機会がもてて良かったです。保護者の方は、分からないことがあったときに、尋ねやすくなったと思います。また、小島先生のお話の『「渡す」から「伝える」』を意識します。相手が尋ねてこないから分かっているだろうではなく、学校の伝えたいことを確実に「伝える」工夫をしなければならぬと感じました。本校の職員にもこのことを伝えます。

仁方小学校長 横山 眞澄



今回、学校生活ガイダンスに参加させていただき、この4月から本校に入学する生徒とその保護者に直にあつて、中学校生活に向けての不安や疑問について話し合う機会を持つことができました。ありがとうございます。また、オンラインで小島先生のお話を聞くこともできました。日本語で日常会話ができることが、必ずしも、授業や学習内容を理解できることではないなど、非常に参考になるお話でした。また機会があれば、研修の場を設けていただけるとありがたいと感じました。

仁方中学校長 平田 洋一



今回、「学校生活ガイダンス」に参加させていただいて、我が家にある日めくりカレンダーにあつた「違いを知るとやさしくなる」という言葉を思い出しました。相手のことを知ることで、違いが理解できる。理解することで相手に共感したり、新しい価値観を学んだりすることができ、自分の考えや行動が変わる。小島先生や保護者の方のお話を聞かせていただいて、そのことを実感しました。

これからの国際化社会で必要な「異文化と共生できる資質や能力」を子供達に育成するためにも、小島先生からの学校への3つのメッセージや保護者の思いを全職員で共有し、全ての子供達が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努めます。そして、「生きた国際理解教育」にも繋げていきます。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

広小学校長 枝長 眞智子



1 冊子「呉市の小学校生活」について

読み仮名付き、写真も掲載されていて、分かりやすかったです。その後の、学校別に話をするとき、文や写真などを指し示しながら、補足をすることができました。

2 中学校の説明も聞いてもらったことについて

保護者にとっては、小学校卒業後のことを知る良い機会になったと思います。

3 小島先生の話から

「渡す」のではなく「伝える」

このことを、教職員にしっかり伝えたいと思います。

4 保護者との話し合い

将来、お子さんがどのように育つことを希望しているのか聞くことができました。

個別の支援計画等に反映させたいと思います。

坪内小学校長 渡邊 浩美




会を進行しながら感じたことは、「小中の学校生活をプレゼンして下さった校長先生をはじめ、参加した日本人が「やさしい日本語」を意識して話そうとしたこと。」「外国籍の保護者が何を質問するか事前に考えていたこと。」等、会に参加する皆さんの意識の高さを感じました。そして、その学校と保護者の間をうまくつないで下さった小島先生の講話は、すばらしかったです。小島先生のパワーあふれる話は、会の雰囲気をなごやかなものにしてくれました。そして、「5つの約束」と「先生方へ」のメッセージは、参加したみなさんの心をとらえ、後半の懇談会を盛り上げるきっかけをつくってくれました。

今後、「会に参加しにくい保護者をどう巻き込んでいくか。」「ガイダンスの内容を学校や家庭・地域にどう広げていくか。」が課題として考えられます。

白岳小学校 日本語学級担当 江口 修三





— おわりに —

学校生活ガイダンスでは、白岳小学校深見校長先生、白岳中学校村井校長先生から、やさしい日本語でわかりやすく説明され、保護者の皆様も熱心に新しい学校生活について聞いておられました。

続いて行われた、小島先生のお話ではオンラインにもかかわらず、先生の外国にルーツをもつ子どもたちへの支援に対する熱い思いが伝わってきました。「家ではしっかり母語を使って、子どもに話をしてください」に保護者の方が感銘されていたことが印象に残っています。

学校との懇談会では、保護者の皆様が熱心に質問される姿、校長先生が丁寧に対応される姿が印象的でした。

また、ガイダンスを通して、保護者の皆様が、子どもが楽しく学校生活を送ることを強く望まれていること、日本固有の制度に対して不安を抱えていることを実感しました。今回、対面で小中学校の校長先生とお話することで、保護者の皆様の不安を緩和できたのではないのでしょうか。当ガイダンスでの出会いが、今後の学校生活においても活用されることと思います。

学校は地域ともつながる場でもあり、子ども達が楽しく学校生活を送ることは元気な地域づくりにつながります。

最後に、このガイダンスを企画し開催していただいた「ひまわり21」「ワールド・キッズ・ネットワーク」の伊藤先生、江口先生及びご協力いただいた小中学校の先生方に感謝申し上げますとともに、今後もこのような取組みが続くことを期待しております。

日本語ネットワーク 住みつづけて呉 事務局(地域協働課)